# 自然と文化科　活動記録　(公開講演会)

| | | |
|---|---|---|
| 日時 | ２０２４年７月19日(金)　10：00～12：00 | 担　当　者 |
| 場所 | クロスパル高槻　８階イベントホール | 文：岩﨑　優　写真：今堀　昭恵 |
| 備考 | 参加者数　１班 18名　２班 19名　３班 20名　４班 16名　計 73名 部外参加 19名 | |

1.　講演のテーマ　「奈良のくすりの歴史に学ぶ薬用植物」

2.　講　師　　奈良県薬事研究センター　研究推進係　総括研究員　西原　正和　先生

3.　講演者略歴　摂南大学薬学研究科修士課程修了　2004 年.奈良県庁入庁
現在・奈良県薬事研究センター研究推進課総括研究員

4.　講演要旨

奈良は、薬の歴史が深く、西暦 611 年の推古天皇の薬猟に始まり、唐招提寺を創建した鑑真和上は医薬の知識が深かったとされているほか、聖武天皇のお后である光明皇后が奉献した生薬類を保管する東大寺正倉院、江戸時代・八代将軍の徳川吉宗が日本各地に薬用植物の調査を命じた採薬使など、歴史を語る上では薬用植物は外せない。今回は、奈良の薬の歴史と薬用植物にスポットを当てる。

① 推古天皇の薬猟（くすりがり）西暦 611 年（推古 19 年）菟田野で薬猟を行った。男性は狩猟で鹿茸・鹿角を、女性はヨモギや、ショウブを採薬した。ヨモギは、現在は生薬やもぐさの原料としても有名。

② 唐招提寺の開祖「鑑真和上」鑑真和上は、医薬の知識にも長けており、日本に着いた時には視力を失っていたが、その鋭い嗅覚・触覚・味覚などで鑑定したほか、光明皇后の病を治し、聖武天皇に大僧正の称号を与えられる.。現在、唐招提寺には、薬草園を建設しており、その一部は一般公開されている。

③ 東大寺正倉院の種々薬帳 聖武天皇の崩御後、光明皇后は 77 日忌に聖武天皇の寵愛品とともに 60 種の薬物を献納する。現在、38 種が現存している。

④ 役行者の伝承薬「陀羅尼助」胃腸薬。原料は、キハタから採れる「黄柏（オウバク)」

⑤ 空海が中国から持ち帰った「ボタン」　奈良県でボタンが有名な寺では、長谷寺、当麻寺、金剛寺。

⑥ 江戸時代（享保年間）の採薬使　江戸時代、八代将軍徳川吉宗は、国産生薬の普及を奨励するため全国に採薬使を派遣。財政が苦しい中、薬種の調達は、中国からの輸入にたよっていて財政を圧迫。国内で同様の薬効を持つ薬用植物・生薬を栽培、確保と考えた。森野藤助は自宅の裏庭に植えて育てて、それが、現在の森野旧薬園となり、現在も見学することができる。

⑦ 奈良ゆかりの薬用植物　トウキ、シャクヤク、ボタン、ジオウなどが奈良ゆかりの薬用植物。中でも、ヤマトトウキは、品質が良く、ブランド価値が高い。

※ 西原先生が、執筆されている単行本の紹介があった。
「奈良とくすり・祈りと治療の歴史」京阪奈新書

5.　所感

よもぎは、ヨモギ餅などよく知られているが、薬用にもなり、もぐさが出来るまでの工程の紹介や、生薬としては、艾葉（がいよう）といい、血を止める効があることを知った。ハス・クチナシ・ニンジンなども薬用植物であることを学んだ。